

③ ————————————————————————————————————	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふ	がらかく 宣ふ、 🛛 ② 🛮 と覚ゆるなり」と云へば、 「立たぬと云はば、立	立つを覚え給はぬか。聖人にておはしまさば、①さもあるべし。凡夫な**	薄こそあれ、いかでか腹立ち給はざらむ。縁にあはぬ時こそ立たね、またば、	云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚、からなく、************************************	修行者の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候は※」と	ある遁世の上人の、学生なるが庵室へ、修行者常に来る。中にあるとはは、これらにん、がくしゃう。あんじつ、※しゅぎゃうしゃ、きた	改めた所があります)。	[1] 次の文章を読み、後の問いに答えなざい(出題のために一部文章を
		たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふ	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふがらかく宣ふ、「②」と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふがらかく。宣ふ、「②」と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立立つを覚え給はぬか。。聖人にておはしまさば、①」さもあるべし。凡夫な	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふざつを覚え給はぬか。聖人にておはしまさば、①ごもあるべし。凡夫なは、全あれ、いかでか腹らだ。と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立 一 さもあるべし。凡夫な はて そ あれ、いかでか腹らだ。縁にあはぬ時こそ立たね、また はて	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふずこそあれ、いかでか腹立だとはばらむ。縁にあはぬ時こそ立たね、またずこそあれ、いかでか腹立だとはざらむ。縁にあはぬ時こそ立たね、またがらかく宣ふ、「②」と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立がらかく宣ふ、「②」と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立がらかく宣ふ、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の若になし給ふは、いかにとて候ふがらかく言ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の若になし給ふは、いかにとて候ふ	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふがらかく宣ふ、 ② と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立がらかく宣ふ、 ② と覚ゆるなり」と云へば、「立たぬと云はば、立を覚え給はぬか。 聖人にておはしまさば、 ③ さもあるべし。凡夫なずこそあれ、いかでか腹立ち給はざらむ。縁にあはぬ時こそ立たね、またずらかく。 ※ しょうじん 意順痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候はぬ」と修行者の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候はぬ」と	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふ修行者の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候はぬ」と修行者の云はく、「法師は生まれてより後、すべて腹を立て候はぬ」とである。上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の云はく、「凡夫は、貪瞋痴の三毒を具せり。たとひ浅深厚云ふを、上人の、学生なるが庵室へ、修行者常に来る。中にあるある遁世の上人の、学生なるが庵室へ、修行者常に来る。中にあるある近世の上人の、学生なるが庵室へ、修行者常に来る。中にあるたぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふたぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふたぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふ	たぬにておはしませかし。人を虚事の者になし給ふは、いかにとて候ふめのた所があります)。

やみけり 順呼がましく 侍り 、凡夫の習ひ、

(我が非は覚えぬとこそ) (「沙石集」より)

月

 \Box

注 ※修行者……諸国を巡り仏道や修験道などの修行をする人。 ※凡夫……悟りの境地に達していない者。

※具せり……備えている。 ※貪瞋痴……貪りと怒りと無知。

※浅深厚薄こそあれ……程度に差はあっても。

※縁……機縁。怒りを起こすきっかけ。

※聖人……悟りの境地に達した者。

※立つを覚え給はぬか……怒ったことを覚えておられないのか。

※おはしませかし……お思いになっておけばよいではないですか。

※首をねぢて叱りければ……首をねじって怒鳴りつけたので。

※嗚呼がましく……愚かで。

問一 =部を現代仮名遣いに改めなさい。(

	問
=	_
子で	
と言い	一部①の内容を本文中から十八字で抜き出し。
2	(1)
2	内内
1	容
_ ਜ	をす
サ売	十
5.	中
>	か
(可売点も字汝こ	十
2	八
3	字
٥؍د	坊
	き
	出
<u> </u>	Ļ
(始
	8
	と紋
	始めと終わりの
	Ŋ
	0

出して答えなさい。 ② に入る言葉として最も適当なものを本文中から二字で抜き

問四 -部③の主語を本文中から三字以内で抜き出して答えなさい。

なさい。(

-部④の内容として最も適当なものを次から選び、記号で答え

上人が、事実に反して自分を聖人だと称していること。 上人が、修行を積んだはずなのに凡夫のままであること。

法師が、 法師が、自分は怒らないと言いながらも怒っていること。 記憶をなくしたふりをして上人をだましていること。